

ルルドの丘

2014
12月
No.30



社会福祉法人 聖母の騎士会

恵の聖母の家

児童発達支援センターめぐみ

相談支援事業所ころろ

みことば

百の言葉でも言い表せないこと。

どんなお返しをしても足りないもの。

それには幸せいっぱいのみなざしで、

はっきりと「ありがとうございます」ということ。

フリードリヒ・ライザー（ドイツ人聖職者）

きらりん☆

ステンシル活動始めました

保育士 後藤 祐子



今年度より月に1回、ステンシル活動を担当することになりました。今まで、ステンシルを一から準備したことがなかったので、うまくできるか心配でした。でも、利用者は、担当者が代わったことに、すぐ気持ちの切り替えをされていて、期待でいっぱい。瞳をキラキラ輝かせて活動を楽しみにしていました。その期待に応えねば…。

今までは、テーマを草花中心にしていたようで作品はどれもすばらしく、他に思いつく花がないくらい、たくさんの作品ができていました。今後は利用者と相談してテーマを決めることにしました。毎月、その月にふさわしいイラストをいろんな中から選んで、準備しました。利用者は筆を握ると、目は芸術家の目になっていました。沢山の作品を仕上げただけあって、筆の使い方を指導することはなく、次々に作品を仕上げていきました。支援者の作ったステンシルにどんどんチャレンジして、色を選んだり、濃淡を学んだりと楽しく活動しています。今はまだ8作品しか出来ていませんが、「ふつうの絵」ではなく、利用者の思いとステンシルの良さが合わさって、とてもすばらしい作品が増えていくことと思います。利用者のキラキラ輝く瞳をいつまでも輝かせていけるよう、ほんの少し、お手伝いしたいと思います。

巻頭言

施設長 佐藤 圭右

恵の聖母の家は入所施設ですが、外来診療も行っていきます。ここ野津近隣の方が、風邪をひいたとか、インフルエンザの予防接種とか、そのようなことで来院されることもありませんが、発達外来というのも行っています。

成長と発達という言葉がありますが、成長は、身長や体重の量的な増大を言うのに対し、発達とは機能的な成熟を意味しています。

例えば、初めは寝たきりだった赤ちゃんも、首が座って、お座りができて、つかまり立ちをして、立つちができて、そして歩き始めます。また、「あー、あー」としか言っていなかった赤ちゃんも、人見知りをしてお母さんと他人の区別がつくようになり、そのうちに「ママ」が言えるようになって、「パパ来て」などの二語文を話し出し、友達を作って、異性との交際も始まり、やがて、「うるせえ、くそばばあ」などの反抗期も迎えるようになります。これらは、運動機能や言葉の機能、社会性の機能などの「発達」なのです。

さて、最近、発達障がいという病気が注目されるようになりました。発達障がいとは、これらの機能の障がいです。この中で、運動機能の障がいは、脳性麻痺などを始めとして、以前から知られているものですが、言葉や社会性の機能の障がいとはどういふことでしょうか？

言葉が遅い、というのも昔から知られてい

ますが、なぜ言葉が遅くなるのでしょうか？

その原因の一つに、自閉スペクトラム症というものがあります。以前は自閉症や広汎性発達障害などと呼ばれていたものです。これは、原因はまだわかっていませんが、育て方に原因があるわけではないことはわかっています。この病気の中心は、他人とコミュニケーションをとることができない、というものです。言葉が話せない赤ちゃんでも、指差しをしたり、目で訴えたりしますが、この病気の人はそういうことが苦手です。いわゆる空気が読めない人も大きな意味ではこの自閉スペクトラム症に含まれるのかもしれませんが。

また、落ち着きのない人もいます。目の前のものにすぐ気を取られてしまいます。でするので、部屋を片付けようとしても、片付けの中で出てくる本をつい読んでしまったりして、全く片付きません。授業中に、運動場ですいている他のクラスのサッカーに気を取られて、思わず教室から出てしまいます。このような人の中には、注意欠陥多動症と呼ばれる病気の方もいるかもしれません。

では逆に、空気の読めない人、落ち着きがない人は、みんなが発達障がいの病気なのでしょうか？

そもそも「障がい」とは何なのでしょう？

障がいとは、例えば、歩けないとか、目が見えないとか、話が通じないとか、もっほひ、

その「個人」が、同年齢の人たちと比べて、その能力を欠くという意味で理解されているように思います。

しかし、現代では、WHO（世界保健機構）によると、障がいとは、心身機能、個人活動、社会参加に関する問題とされ、個人と所属する社会との相互作用とされています。つまり、例えば歩けなくて外食に行けない人も、車いすなど歩く代わりにものがあって、その移動に際し階段など妨げるものがなくて、スムーズにお店に入るのであれば、障がいという必要はないということだと思えます。

先ほどの空気が読めない人や、落ち着きのない人であっても、社会に参加できるのであれば障がいではないというわけです。ただし、もし、学校生活や社会生活を送る上で差し障りがあるようであれば、何らかの支援をすることで社会に参加できるようになるかも知れません。

このように考えると、社会が成熟してくれば、個人レベルでの心身機能に問題があっても、社会がそれを受け留める仕組みを持てば、障がいはなくなるのかもしれませんが、それを目指すことこそ、まさに「この子らを世の光に」ではないでしょうか。

★

今年が糸賀一雄生誕百年の年でした。

写真は入所者が園内レクで制作したスノードームです。▶





▼各部署の声です。今年目標は「一体感」です。

医局

特定看護師について

特定看護師 後藤 愛

平成26年4月に、恵の聖母の家で特定看護師として働き始めて2年が経ちました。

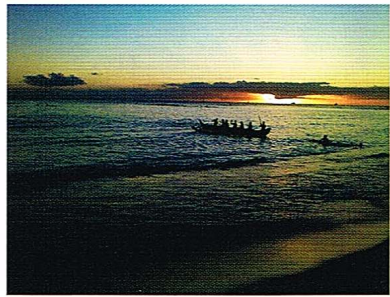
職員にこの話しをする、「まだ2年しか経っていないの？もっと長くいる気がする。」「と言われていました。それだけ認知してもらっていると嬉しく思う反面、あまりに大きな顔しているためにそう思われてしまうのかしら…と少し不安に感じています。

これまでに「あゆみ」「ぞび」「ひかり」と順番に棟を移動しているので、ピンクの制服を着たちよっと丸い人といえば「あの人かな」と思い描いていたかもしれません。

特定看護師は「医師の包括的指示のもとに…、特定行為を実施することのできる看護師」（日本NP教育大学院協議会）とあります。つまり、従来の看護師は直接医師に指示を受けて処置などを行っていたものを、特定看護師は一定の範囲内（特定行為）について、判断し処置などを実施しています。現段階では、厚生労働省の試行事業後の中で活動を行っています。今年6月18日に特定看護師に関連した「医療介護総合確保推進法」が参議院本会議にて可決、成立し、法制化されます。このことは、「看護協会ニュース」という看護協会新聞の号外が出るほどの騒ぎとなりました。（看護界には、ですが…）

現在、特定看護師は全国で約100人程度しかいません。さらに、私の専門である小児特定看護師は全国で3人しかいないため、あまり知られていない現状にあります。今回の法制化されることによって、より身近な存在となれるように、職員とともに頑張りたいと考えています。

最後に、ハワイの写真を載せさせていただきますました。機会があれば初ハワイの「NP研修珍道中」について書かせていただきます。また、お金を貯めてハワイの研修に行きたいな。



ハワイの夕陽



ハワイの公的病院の庭にて、オリエンテーションのはずが、なぜかフラダンス!?

訓練課

はじめまして、じじよよろしくお願ひします

言語聴覚士 山部 知宏

今回、この原稿を担当することになって、どちらかといえばはじめの内容にするか、それとも気楽な内容にするか少し迷いました。迷ったので、両方を書くことに決めてこの原稿を書き始めています。ではまず、はじめの内容の方から。

僕がこの恵の聖母の家で言語聴覚士として勤務するようになって、12月で1年になります。以前の病院での仕事は主に高齢者の方々に対する「リハビリテーション」で、脳卒中を発症されて回復期のリハビリテーション目的でいらした方を中心に、その前後にあたる発症直後の意識障害の時期の方や、回復期終了後に療養型の慢性期病棟入院されている介護度の高い方々とのリハビリテーションが仕事の内容でした。

恵の聖母の家に勤めるようになって、今も言語聴覚士という肩書きは以前と同じですが、仕事の内容に関しては「リハビリテーション」から「訓練」へと変わりました。

恵の聖母の家では、主に新生児期や乳幼児期に脳性麻痺等を発症されて、生活の場として恵の聖母の家に長期入所後成人になられた方が、いわゆる発達遅延等が疑われて発達外来に見えらるる主に児童たちとの訓練が仕事になります。

ですから、現在の業務は入所にしても外来にしても、基本的に発達や成長を促す事を意図した内容になります。入所の方々は主に成人の為、以前のリハビリテーションのかかりに近い印象ですが、発達外来の児童に関しては、セブリストとしての自分の考えかたを少しソフトチェンジする必要があります。

それが最も必要だったのが目標に関する部分で、以前行っていたリハビリテーションは発症後の状態をどのようにすれば、どの程度発症前に近づけていけるかを予測しながら最善のゴールを目指して目標を立てます。

一方、現在療育でかわらせていただいている小児の方々はあくまで成長の過程のため、こちらに見えらるるきっかけになった主訴の原因が、単に成長がゆっくりなだけなのか、それともどこか独特の性質が影響しているせいなのかを見極めることは、実際にある程度の年齢に達してみなければなかなか困難な印象です。

よって、小児の療育の臨床の場合、遠くの目標に向かってというよりも、日々の前の事を一つずつ積み重ねていくプロセスそのものが目標のような気がします。言い換えればそういう「成長の流れに乗せる」事が訓練の役割で、その結果がどうなるのかは「本人が年齢を重ねてみた時に始めてわかる事であり、ある意味で花や実を結ばせるために水や肥料として日光を与えながら植物を育てる作業に似ているなど感じさせられる今日この頃です。まじめな内容が少し長くなったので、気楽な方は手短かに。

ほくの趣味の一つとして食べ歩きがあります。子供が産まれるまでは、インターネットの食べログなどのサイトで情報収集して、休日には大抵妻と一緒に美味しい物を探してあちこちをうろついていました。ですから、ジャンルを問わずに言いだすと与えられた紙面が足りなくなりそうなので、今回はスイーツのオススメの店を一軒紹介します。それは、大分市の高城にある「善(chizen)」です。住宅街の中の二軒屋の軒先の小さなスペースで週末の金曜日と土曜日だけ営業しています。

その店で人気NO.1と紹介されている「オレンジのクラフティ」は、初めて食べた時に大分市の有名なロールケーキの「中島ロール」にも負けないくらい衝撃的な美味しさを感じる事が出来るはずです。込み入った住宅街の中にあつて、なかなか店を見つけてほしいとは思いますが「日出町の「パン王」や三重町の「HADA」といった有名店の味にも負けな美味しさだと思つたので、機会があればぜひ「善」のケーキも賞味くださいませ。



看護課

宇佐神宮とパワースポット

看護師 野村 新一

宇佐神宮は、宇佐市にある神社であり、全国四万四千社と称する八幡宮の総本社です。また宇佐神宮は多くの謎に秘められた神社でもあり、パワースポットとしても有名です。

今回は宇佐神宮についての謎解きではなく、大きな意味を持つ2箇所のパワースポットについて私が実際に行った時に感じたことを書いてみました。

まず一つ目に境内にある神用仏・通称願掛け地蔵は人に見つからずにお願いと一生に一度だけ願いを叶えてくれると言われています。少し分かりにくい場所にありますが、皆さんも是非願いを叶えに行ってみてはどうでしょうか。私はこれから先の願いを全て叶えてくださいと願ったせいか、未だに願いは叶えられていません。

もうひとつのパワースポットは、宇佐神宮から約6キロ南東に御許山があり、その山の頂上に奥宮があります。宇佐神宮の神が降臨されたという場所です。ここにある奥宮は歴史的にも古く、霊的な意味も強い土地に建てられています。奥宮まで行くには、登山と車で行く方法があります。車で行くといっても道なき道を行くといった感じで、道幅も狭く、脱輪でもするものなら、JAFも呼ぶのも難しい様な所です。私なら、登山をすすめますが、奥宮に行くとは鳥居に有刺鉄線が、張り巡らされており、何人も足を踏み入れることを禁じるという禁足地になっているため、鳥居の奥にあるといわれる御神体は見ることはできません。実際、鳥居の前に立つと言えない強烈なパワーを感じます。感受性の強い人は気をつけたほうが、良いかもしれません。

以上紹介した2件の詳しい情報が欲しい方は、私まで連絡をください。



栄養課

ランチバイキングに参加して

調理師 北島 恵里

10月22日(水)にのぞみの丘、あゆみの広場合同でランチバイキングを行いました。メニューは主食にちらし寿司、サンドウィッチ、ミートスパゲッティ。主菜はステーキ、ハンバーグ、エビフライ、副菜はたこ焼き。汁物はパンプキンスープ。デザートはミックスジュース、ムース(各三種類ずつ)。栄養課特製ブッシュドノエル、シュータワーなどなど。のぞみ、あゆみでは初めてのバイキングだったのでビックリして興奮している方や、選ぶのに夢中になっている方もいて、目で見て楽しむことができましたと思います。今回のバイキングでは経管栄養食の方にも楽しんでいただけるようにカラフルなカップに少量ずつですが、ミキサーにしたジュースなどを入れて提供しました。普段見ることのない入所者の様子やご家族の話、意見などを聴くことができたので、これからの食事作りに生かしていきたいと思えます。



2014年7月18日(金) 夏の集い

夏遊びを通して季節を感じ、ふれあいを楽しむことを目的に行っています。あゆみの広場とぞのみの丘の職員、入所の方が浴衣や甚平を着てホールに集まり、最初にスクリーンで花火のビデオを観て夏の風物を楽しみました。スイカ割りでは、スイカがなかなか割れませんでした。皆で食べたスイカはどれも美味しく、笑顔もたくさん見られました。また、ひかりの大地は8月8日に夏の集いを行い、盆踊り(チキリンばやし)を踊ったり、組み製の金魚を用いたゲームを行い、季節感を味わいました。チキリンばやしは昔、施設行事の夏祭りによく踊った曲でもあり、懐かしかったという感想も多くいただきました。



2014年8月15日(金) 聖母被昇天ミサ

聖母被昇天祭・故利用者追悼ゴミサが交流ホームでありました。深き聖母の家の皆さんと一緒に亡くなった関係者のためにお祈りを捧げました。神父様からは「8月15日は日本にとっても特別な日」であること、「自分のほうに良いものを持ってこられるだけの生き方ではなく、自分の持っている良いものを人のために使う生き方」「自分を人に提供し、捧げる生き方は心の平和と深くかかわっているはず」「大切なことや偉大なことに気付いたら、それは人の幸せが本当に完成する時ではないだろうか」と、人の生き方にとって大事なことを話していただきました。



2014年8月21日(木) 全体研修 権利擁護研修

8月は人権月間です。恵の聖母の家では、病棟とセンターで啓発活動を行い、8月21日10時から2階会議室で深き聖母の家の職員の皆さんと一緒に園内研修を行いました。大分県福祉保健部障害福祉課障害児支援課課長補佐の佐々木裕二様を講師にお迎えして「「人権尊重」を基本とする施設運営について」のテーマで、支援者側のサービス提供としての自覚、障がい者の意思決定支援が支援者側の技術も深めることにつながることを講演していただきました。他に、事例や職員からあげられた質問項目についての助言もいただき、今後、より利用者につなぐ支援につなげていこうと思います。



24 時間テレビ募金活動

毎年、8月の下旬に「24 時間テレビ」があります。恵の聖母の家では、入所者が毎年、施設内で募金活動を行って、もう16年になります。2014年も病棟内をまわって、たくさんの方が募金に応じて下さいました。集まった募金は8月30日に明野アクロスに行ってきました募金受付に届けました。一人でも多くの方々に必要な支援が届きますように☆

2014年9月13日(土) 家族の日ファミリーフェスティバル

病棟ホールでは職員やご家族等、関係者の作品を展示し、地域交流ホームでは催し物を行いました。ボランティアの方も団体を含め、30名の方が協力してくれました。病棟にはたくさんの作品が展示され、催し物の方ではパルーンアートやカラオケ大会等を行いました。催し物の表彰では、黒田官兵衛の仮装をして「黒田節」を披露したチームには「ジャパニーズクラシック賞」、戦隊ものの「ゴレンジャー」には「懐かしいうち賞」というように、副施設長が賞の名前を即興で決めて会場を楽しませてくれました。



2014年6月15日(日)30周年記念式典 恵の聖母の家創立30周年記念講演会 3.11を生きぬいた重い障がいのある子どもたち ~支援活動から得られた防災対策~

白杵市民会館大ホールにて、講師に東北大学小児科准教授田中総一郎先生、そして宮城教育大学教授菅井裕行先生をお招きし、防災をテーマに医療、福祉、教育の面から講演会を行いました。当日はたくさんの方にご来場いただき、盛大に行うことができました。講演ではメモをとられる方や講演会後のアンケートでも「よかった」との感想が多く、主催側も皆さまのお役にたてる記念講演になったのではと感じているところでした。本当にありがとうございました。また開催準備にあたり、ポスター掲示やチラシ配布、インターネットの広報等でたくさんの方にご協力をいただきました。改めて感謝とお礼を申し上げます。

2014年6月21日(土) ふれあい運動会

第31回ふれあい運動会を地域交流ホームで行いました。テーマは「絆を深く努力でがんばろう」です。競技は「うちわでチャレンジ」「めぐみまでお届けします!!宅配リレー」「はじめてのおつかい」「動物園ごはんの時間ですよ(玉入れ)」「飛び出せ!!パチンコカーリング」で、出場者が力を発揮できるようにそれぞれ工夫されたものでした。全体でのフォークダンスでは「恋するフォーチュンクッキー」を踊って楽しみました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



2014年7月26日(土) ボランティア公演

別府大学短期大学部人形劇団マーブルの公演がありました。人形劇や歌をはじめ、団員の方々が観客のそばに行き、人形に触れたり、写真撮影をして楽しみました。後日、マーブルの皆さまからお便りが届き、「利用者さんからのお礼の言葉が本当に嬉しくて涙が出た」等、ありがたい言葉をいただきました。これからもよろしく願います。



2014年7月8日(火) ローマ法王庁駐日教皇大使の施設訪問

ローマ法王庁のジョゼフ・チェノット駐日大使が来られ、入所の方、通所利用者、託児所児童が病棟ホールに集まって大使を歓迎しました。大使は入所の方、一人ひとりの手を握って体調について質問していました。医師、看護師長から医療について、保育士からは療育活動を説明し、大使はとても感動されていました。施設内に展示してある入所者の作品もご覧になりました。これからも大使と皆とのつながりが続きますように。

2014年7月11日(金) 創作活動

ぞのみの丘で季節を感じる創作活動を行いました。テーマは「絵具の感触を味わいながら「花火」を描こう」です。題材は「夏」や「海」にし、絵画制作では絵具に食紅と小麦粉をまぜたものを用い、フィンガーペインティングを行いました。入所の方も手で絵具に触れ、色の鮮やかさに目を見開いているような表情をみせて、楽しい活動になりました。



9月18日(木) パークプレイス大分 参加者 6名

買い物では、ここにこしてす違う人に手を振ったりタッチをする方、声をあげて周囲のものに興味をたくさん示した方、よく声を出して気持ちよく過ごした方、ご家族と会話をしながら買い物を楽しんだ方、お母さんに必要なものを伝えて買い物を楽しんだ方もいました。商品も手浴用のハンドソープや洋服等、必要なものをたくさん買っていました。食事では、むせることなく食べた方、買い物の時は眠っていても食事ではばちっと目を開けてグラタンを食べた方、まだまだ食べられない方等、皆さんそれぞれに楽しみました。



10月2日(木) しまむら白杵店 参加者 5名

衣類や掛物を中心に買い物をしました。参加者の中には準備の時から笑顔や笑い声が聞かれていました。店内では支援者が衣類を見て声かけを行うとじっと服をみている方や、実際に手に取ってさわって真剣な表情でうなずいて買い物をされました。また購入したブランケットを手で触った時にしっかりと目を開けて気づいてくれた方もいました。後半の時間はお休みになる方もみられる中、買った衣類をしっかりと手に持って、声かけに満足そうな表情をみせた方や予算内でたくさん買い物ができる方もいました。天候、気温とも良好で過ごしやすい中での活動で、リフレッシュできました。



10月9日(木) パークプレイス大分 参加者 6名

活動前からテンションが高く、笑顔を見せた方、反対に普段とは違って静かに過ごした方もいましたが、ご家族と一緒に買い物や食事を楽しまれた方や最初に買うもの、またいくら残っているか等、予算を気にして買い物をした方もいました。買い物を楽しみにしていた方は最後の最後まで買い物をしていました。電動車いすで参加された方は自分で操作し、他のお客さんに注意して買い物をすることもできていました。食事の時はなぜか食べる順番がいつも違い、一番食べたいものを気にしている方もいました。施設内の時と違って静かに過ごされた方、DVDやお菓子を買って大笑いをしてご機嫌な方、自分で歩いて買い物ができた方もいました。参加されたご家族にとってもゆっくりと関わられるいい時間となりました。3家族の参加があり、買い物の時は機嫌よく声を出して、ご家族からは「子どもと一緒に活動を楽しむことができた」との感想をいただきました。



5月29日(木) うみたまご 参加者 6名

到着後、館内の散策を行いました。散策ではじっと魚や生き物をみたり、サメやイルカ等を実際のみて、思わず声をあげ、その後生き物について語ってくれる方、逆に口数は少なかったのですが、あざしへのエサやりでは笑顔になり、生き物の名前を何度も復唱する方もいました。他に、館内の暗さや人の往来が気になる方、ご家族とゆっくり時間を過ごされる方、また各ショーでは生でみる動物の迫力に入所者も大変喜ばれていました。出発前に活動の予定を説明する中、ご家族が来られることがわかったと非常に喜んでいました。イルカのショーよりもご家族の方とともに食事や大好きなコーヒーを楽しまれた方もいました。



6月26日(木) 道の駅 みえ 参加者 5名

雨天でしたが、屋根つきの駐車場を使用し、乗降も問題なくできました。参加者にとって店内は普段目にしない展示物や食べ物があり、香りもよく楽しみました。店内ではでんでん太鼓を手に握ってもらうとすぐに放したものの、不思議そうな表情をしていました。果物や野菜のコーナーでは甘い香りに興味津々だった方、散策では終始穏やかな表情で風を感じた方、普段は物に手をすぐに伸ばす方も店内ではじっと見ているだけの方もいました。中にはチーズゼリーを食べ、ずっと笑顔だった方と皆さんそれぞれ楽しめました。今回は2家族の参加があり、ご家族からは「買い物や食事もゆっくりと楽しむことができた」「暑くもなく過ごしやすいかった」との感想がありました。ご家族とのデザート選びや散策では穏やかな表情や会話が弾んでいる様子がみられていました。



7月3日(木) 白杵石仏 参加者 2名

雨天だったため、ドライブとして行いました。現地到着後は雨が降っておらず、ときめき作品展に向けての題材見学も兼ねて予定通り散策ができました。題材として、石仏や蓮の花の水辺を鑑賞し、隣接するせんべいの工場も見学できました。せんべいも試食でき、参加者はとても喜んでいました。時間的にも余裕があり、参加者も終始くつろぐことができました。

7月24日(木) マルシヨク白杵店 参加者 5名

出発の時から笑顔がみられ、手をよく振ってお出かけし、普段は眠くなる時間でも店内では起きて洋服選びを喜んだ方、商品を見ると職員の顔をみて笑顔で気持ちの良い声を出した方、また車いすに座って疲れをとりながら洋服を選んだ方々、それぞれ買い物を楽しみました。ご家族と買い物をしました方は購入したキャラクターのバッグをしっかりと持って過ごし、楽しも過ぎて興奮気味な方もいました。





▼各部署の声です。今年の目標は「一体感」です。

児童発達支援センターめぐみの

児童発達支援センターめぐみの夏

7月25日(金)より、支援学校が夏休みになり児童の方と生活介護の利用者さんが一緒に過ごしました。日によっては1日に12、3名の利用もあり、いつもより賑やかなセンターになりました。

夏休み中は、「ビデオ鑑賞会」や「ボランティア交流」「スヌーズレン」等の活動を毎年行っています。この夏も、ビデオ鑑賞では大型スクリーンに映像を映し出して映画鑑賞会(アナと雪の女王)を行ったり、7、8月は、体験実習に来てくれた看護学生と交流を楽しみました。

8月8日 絵手紙

普段緊張して手を開くのが苦手な方も笑顔がたくさんみせて手の緊張もなく、はがきをしっかりとみて、筆を握って、手を前に出す等、やる気満々の児童さんもありました。

作った作品は、9月13日の家族の日(施設行事)に病棟に展示し、いろいろな方にみてもらいました。



8月26日 ピアノ演奏会

ピアノが得意なボランティアさんによるピアノ演奏会を開きました。

曲目は…

♪ラジオ体操第一

♪散歩

♪となりのトトロ

♪となりのトトロ

♪とんぼのめがね

♪村祭り

♪夕焼け小焼け

♪きらきら星

♪世界にひとつだけの花

♪アメーzingグレイス

でした。

参加者も童謡や唱歌の時に合わせて持っている楽器を演奏して一緒に楽しみました。曲に聴き入ったり、トトロの曲では自分で持った鈴をどんどんならして日頃みられない様子を見せてくれた方もいました。休んでいる感じの方も、じっと目を見開いて聴いている様子でした。

一人ひとりに表情の変化がみられる演奏会でした。

活動後にピアニストのところに行くと、自分から鍵盤をたたいて演奏する児童さんもいて、楽しい演奏会になりました。



センターめぐみは、冬休みも皆さんが楽しめる活動を企画中です。これからもよろしくお願ひします。

絵手紙のポイントは……

絵について

- * 強調したいものや大きいものはみ出すぐらい大きく描く
- * 塗り残しはあったほうが良い
- * 素朴さがあるほうが立体感がでる
- * 一筆描きの方が良い
- * 輝くように季節のものを描く

文章について

- * 言葉が大事になる
- * 思いを一文字一文字にこめて書く
- * 絵と言葉が一体化するように
- * 温かいものが伝わる感じで
- * 相手に思いを伝える気持ちが必要
- * もらった相手が喜ぶように書く
- * 素朴さ、その人らしさを大事に
- * 初心者のほうが上手いことあり

絵手紙は葉書きの大きさなのに、その世界が相手に広がっていく、ふくらんでいく良さがあって、それによってお互いが心をつなぐ良さがあるといわれます。また描いている間は、我を忘れて入っていくことができ、ストレス解消にもなるそうです。自分も元気になって、子どもや大人という枠を超えて一緒に楽しめる絵手紙。年賀状の参考になりそうです。

(松山)



生活福祉課

動物ふれあい活動

介護福祉士 高岡 英二

当施設では、日本アニマルセラピー協会大本部の方に来て頂き、セラピードッグと利用者とのふれあいを通して、心と体のリフレッシュを図りながら、癒しのリラククス効果を目的とした動物ふれあい活動を行っています。



参加を希望される利用者が多く、一人ひとりが参加できる回数が限定的になることが悩みです。楽しみに待っている利用者も多く、「今度はいつあるの?」と尋ねられることもよくあります。活動開始と同時に、セラピードッグがそばに来てくれるのを期待に満ちて待っている方や顔をなめられて「キャー」と叫びながら笑っている方、「カワイイ!」と上手に手の力をコントロールしながら優しくセラピードッグを擦る姿や、まだもつと触りたいと思う気持ちからか、腕をいつもより大きく動かすことができたりする様子もみられています。

時には、セラピードッグの毛を挿んで抜いてしまう利用者もいますが、訓練されたセラピードッグは、吠えたり走って逃げだしたりすることもなく、優しく利用者のそばで横たわっています。そんなセラピードッグと一緒に過ごす利用者は、優しく嬉しかった気持ちに満面に浮かべ、他の活動ではみられないような良い表情がみられています。

今後もセラピードッグとのふれあいを通じて、利用者が安心して心から楽しめ、継続することで持っている力を向上させ、思いやりの心を育むことができるような活動の一助となればと思っています。



地域連携室

巡回療育相談

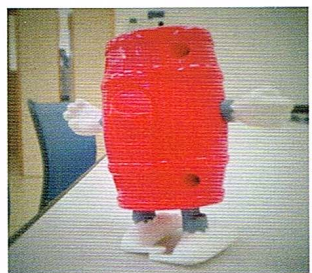
主任 松山 修一

障がいのある児の地域生活を療育、相談体制を充実させて支援することを目的とした事業に、「障がい児等地域療育等支援事業」があります。これは大分県が実施主体となって障がい児施設を経営する社会福祉法人に委託して実施する事業です。恵の聖母の家は平成26年度から直接、大分県の委託を受けて行っています。

事業の内容は、(1)巡回療育相談、(2)訪問援助、(3)在宅支援外来療育等指導、(4)施設支援です。巡回療育相談では、ご家族の相談に応じられるように医師や療育を専門とする者で班を編成し、保健所等を巡回しています。恵の聖母の家の場合は臼杵市、津久見市と豊後大野市を担当しています。訪問援助は障がい児のお家を訪問して本人やご家族等に相談や指導をさせていただくもので、在宅支援外来療育等指導は、地域で過ごされている障がい児および保護者に恵の聖母の家に来ていただいで相談や保育、指導を行うものです。施設支援一般指導は、支援が必要な児童が通っている保育所等の職員に技術の指導を行うものになります。いずれも療育を専門とする者から児童に必要な助言等をさせていただいています。巡回療育相談では、相談会後に子どもたちに必要な今後の方向性を検討しています。ゆっくりと成長を見守っていくものだったり、訓練等を勧めるものもあります。

ごごご家庭でも子どもの健やかな成長を願っています。それは子どもの関係者、そして地域の方々も同じ気持ちだと思います。ただ、子どもの健やかな成長を信じて育てるだけに、ご家族にとっては相談会への参加に勇気が必要なこともあると思います。また支援が必要になると心配にもなると思います。難しいところですが、子どもたちは保育園、幼稚園から小学校というように、それぞれのステージに進んでいきます。次のステージに進むために必要なことが療育を通して準備できれば、子どもにとってより安心して過ごせる環境が生まれると思います。

巡回療育相談で療育を勧める場合もありますが、相談の終わった保護者から「来て良かった」との感想をいただくと、参加者の一人としてほっとしたりします。地域の保健師さんも子ども、そしてご家族が安心して過ごせるように一生懸命です。お子さまのこれからの生活に必要なことを一緒に考え、支援させていただければと思います。





保護者の皆様から

これから10年、15年後

約20年前、娘が不慮の重症事故に会い、病院に入院している頃は介護には家政婦をお願いして母親と協同してもらいました。しかし、介護のみの患者は医療費のこと等から、長く入院生活を続けることも難しい状況で、別な生活を考える必要がありました。当時、重症事故による障がい者を受け入れる施設は、北海道と仙台、岡山だけだったと記憶しています。しかし、その施設もベッドの空きがなく、何年先に入れるかわからない状態で、他に紹介いただいた機関もありましたが、親として不安を感じ、なかなか決断できずにいました。そんな折、娘の担任だった大分の支援学校の先生が臼杵の支援学校に異動となり、恵の聖母の家を教えてくださいました。そこで妻が見学に行きました。いい印象を受けていた時に県から恵の聖母の家を含めたいくつかの機関の紹介がありました。夫婦で見学したことから、恵の聖母の家の関係者と受け入れ態勢を話し合い、空きを待ち、その後、入所になりました。そうして13年になりました。その間、妻も仕事を始めることができました。もし自宅での介護となっていたら、私の家の場合は生活が成り立たなかったのではと思っています。福祉情勢は在宅の方向で、それは大事なことと感じていますが、家族が高齢な場合は難しいのではと思っています。私たち家族の生活は、娘の廻



りの人たち、関係者の智恵や力で続けることができたと思います。介護の人たちの力があってこそ、自分たちの生活ができた、とても感謝しています。

今、70歳になり、これからの10年、15年後を心配しています。その時期に

は親も体調が変わり、面会に来れなくなっているかもしれない。あるいは、もしものことがあるかもしれない。私自身は、最近、日常生活で支障があることもあり、仕事も以前のようにできないので、身の整理を始めているところです。親自身が思うように生活ができないと、後見人も兄弟か第三者かということになります。兄弟であっても、第三者であっても、親のように面会に来るというわけにはいかず、面会の回数も減っていくでしょう。本人の体調にしても、いつ何があるかわからない。子どもにもしものことがあれば葬儀費用のこともあります。今のうちからどれくらいかかるのかを考えて、用意しておく必要があります。自分自身のことであっても子どものことであっても、何かあった場合は財産等の問題が起きないようにしておかねばなりません。

他に福祉の動向も気になります。今までのように手当が続くかどうか。報道では介護の職員は給与等が大変と聴きます。借家であったり、家族がいたら生活にも費用がかかると思います。施設自体もこれまで通りに行かないこともあると思います。家族も施設も様々なことを考えなければならない時期だと感じています。(今回は寄稿者のご希望により匿名とさせていただきます)

支援学校訪問教室

臼杵支援学校 教諭 河野 悦子



臼杵支援学校に赴任して、4年目になります。今年度より小学部5年の児童さんを担任することになりました。「恵の聖母の家」は、20年以上も前に1年間訪問教育に行っていたことがありました。6月に「ふれあい運動会」に出席させていただいた時に、競技中に呼ばれる選手の方々の名前を聞くたびに、その頃のことを懐かしく思い出しました。その当時より建物も増設され、とても大きくなっていることにも大変驚きました。

担当している児童さんの授業は、火曜日と木曜日の週2回行っています。授業準備のために環境を整えて下さったり、始業式等には、入所の方々もホールに集まって皆さんで式を支えてくれたりと看護師さんはじめ、施設の関係者の方々にはとても感謝しています。

授業は、「まあいいのち」という曲で始めることに

しています。毎回流しているで周りの方も覚えて下さっています。触る、臭う、見る、聞く等の活動を可能な範囲で取り入れるようにしています。また、学校の行事や学部の校外学習の様子を映像や音声で知らせていき、他の児童さんとのつながりも大切にしています。先日学校の方で行われた「イムラスマイルフェスティバル」では小学部の劇「ももたろう」の中で、村のお姫様役になりました。授業の中では、ポスターや作品作りに取り組みました。

5年生も残り半年となりましたが、季節を感じたり、まだまだ取り組んでいないことなどを盛り込んだりしながら、楽しく充実した授業になるよう工夫していきたいと考えています。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

★ぴかぴかぴかぴかぴかぴか★

新しく入られたスタッフをご紹介します。①お名前 ②職種 ③お住まい ④趣味 ⑤一言



①三浦美和さん②看護師③大分市④子どもの野球の応援です。他に高校野球をみるのが好きです。⑤明るく楽しく元気に皆さまと過ごしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



①五十川奈々子(いかがわ ななこ)さん②児童発達支援センター③津久見市④美味しいお店を探して友人とランチに行くことが一番の楽しみです。それと子どもの高校野球の応援です。⑤皆さまからたくさんのお話を聞いて、楽しく一日一日を過ごしたいと思います。

活動紹介

ボイスの栄養課の欄でもお話がありましたが、2014年度も病棟でランチバイキングが開かれました。素敵なメニューは栄養課からの提供です。ごく一部ですが、写真でご紹介したいと思います。



お知らせ

▼患の聖母の家ではフェイスブックを開いています。ボランティアの方々による公演の様子等、動画も含めて少しずつアップしていきますので、ご覧いただけるとありがたいです。※患の聖母の家のホームページにフェイスブックのバーナーを用意しています。

人事 (2014年)

8月12日付	▼新規採用	児童発達支援センターめぐみ	五十川奈々子
9月1日付	看護師	三浦 美和	
3月31日付	▼退職	託児所所員	山田 順子
6月30日付	看護師	看護師	佐土原敏子
7月17日付	保育士	看護師	野田 香織
7月31日付	保育士	看護師	東 明美
7月31日付	保育士	看護師	赤嶺 綾
7月31日付	保育士	看護師	大石 和
7月31日付	保育士	看護師	黒木 優
8月31日付	言語聴覚士	看護師	高島 悠太
8月31日付	言語聴覚士	看護師	下迫 愛子
8月31日付	言語聴覚士	看護師	曾田千香子

行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊦…個別面談
 ㊧…権利擁護・虐待防止部会 ㊨…全体朝礼 ㊩…労働安全衛生委員会
 ㊪…リスクマネジメント部会 ㊫…入浴日

2014年12月			2015年1月			2月			3月		
1	月	㊫	1	木	正月行事	1	日		1	日	
2	火	㊨㊩	2	金		2	月	㊫	2	月	㊫
3	水	㊧ ㊫	3	土	㊫	3	火	㊨節分	3	火	㊨ひなまつり
4	木		4	日		4	水	㊧ ㊫	4	水	㊧ ㊫
5	金	㊩ ㊫	5	月		5	木		5	木	
6	土		6	火	㊨ ㊫	6	金	㊩ ㊫	6	金	㊩ ㊫
7	日		7	水	㊧	7	土		7	土	
8	月	㊫	8	木		8	日		8	日	
9	火	㊩	9	金	㊩ ㊫	9	月	㊫	9	月	㊫
10	水	㊫	10	土		10	火	㊩	10	火	㊩
11	木		11	日		11	水		11	水	㊫
12	金	㊫	12	月		12	木	行事委員会	12	木	
13	土	クリスマスの集い	13	火	㊩ ㊫	13	金	㊫	13	金	㊫
14	日		14	水		14	土		14	土	
15	月	㊫	15	木	行事委員会 ㊪	15	日	誕生会	15	日	誕生会
16	火	㊩	16	金	㊫	16	月	㊫	16	月	㊫
17	水	㊫	17	土		17	火	㊩	17	火	㊩
18	木	もちつき ㊪	18	日	誕生会	18	水	㊫	18	水	㊫
19	金	全体研修 ㊫	19	月	㊫	19	木	㊪	19	木	㊪
20	土		20	火	㊩	20	金	㊫	20	金	㊫
21	日	誕生会	21	水	㊫	21	土		21	土	
22	月	㊫	22	木		22	日		22	日	
23	火		23	金	㊫	23	月	㊫	23	月	㊫
24	水	サンタプレゼント ㊫	24	土		24	火	㊩ ㊦	24	火	㊩ ㊦
25	木	クリスマスミサ	25	日		25	水	㊫	25	水	㊫
26	金	㊫	26	月	㊫	26	木		26	木	
27	土		27	火	㊩ ㊦	27	金	㊫	27	金	㊫
28	日		28	水	㊫	28	土		28	土	
29	月		29	木					29	日	
30	火	㊫	30	金	㊫				30	月	㊫
31	水		31	土					31	火	

※関係者の同意のもと、写真を掲載しております。※予定変更の場合があります。

編集後記

2014年の恵の聖母の家の大きな出来事という、やはり30周年記念講演会ではないでしょうか。たくさんの方に来ていただいて、あたたかい感想もたくさんいただきました。ありがとうございました。次は20年後になるかもしれませんが、つながりがより増えていることを願っています。(S・M)